

1月25日正午必着

明石春浦先生書

傍に人無き如く初笑

（高浜虚子）

明石幸子書

豊樂年成春酒満。
昇平時世壽人多（趙甌北）太平を謳歌せしものである。

平時世壽人多
豊樂年成春酒満。



老松欲作蒼龍去怪石常如猛虎眠

古い松は青い竜が天に昇るよう見え、変わった形をした石は恐ろしい虎が眠っているようである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

氣新光照（王讚）

日暮蒼山遠天寒白屋貧
柴門聞犬吠風雪夜歸人

（劉長卿）

氣新たに光照らす

早春寄華下同志（裴説）

正是花時節思君寢復興
市沽終不醉春夢亦無憑

（裴説）
正には是れ花の時節君を思いて寝て復た興く
市沽終に醉わず春夢亦た憑る無し

雪夜、山中の貧しい山人の家に宿泊したのである。白屋はかやぶきやねの賤しいすみか。柴門も柴扉と同じく、しばのと

氣は清新、光は明らかである。

朝々に冬ふかむらし白銀を延べたることき日差となりて

（富格二）

嶽面懸清雨河心走濁冰

（裴説）
嶽面清雨を懸け河心濁氷を走らしむ

東門一條路離恨正相仍

（裴説）
東門一條の路離恨正に相仍る

半紙部規定課題A

1月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

1月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

經周處士故居

方干

愁吟與獨行

方干

何事不關情

方干

久立釣魚處

方干

惟聞啼鳥聲

方干

山蔬和雨歇

方干

海樹入籬生

方干

吾在茲溪上

方干

周處士故居を経

方干

愁吟と獨行と

方干

何事か情に閑わらざる

方干

久しく釣魚の処に立ち

方干

惟だ啼鳥の声を聞く

方干

山蔬雨に和して歌き

方干

海樹籬に入りて生ず

方干

吾れ茲の溪上に在りて

方干

君を懷うて恨み平らかならず

方干

〔三体詩〕下より
朝日新聞社刊

草書

ふむ
むすめ
むすめ
むすめ

不
平
不
平

い
い
い
い

天
平
天
平

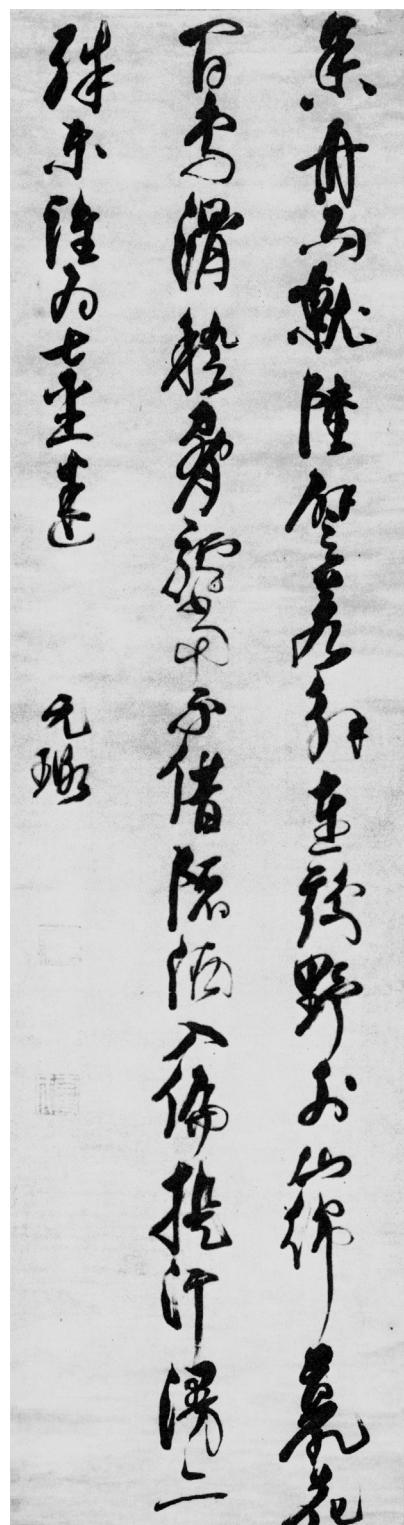
行草書

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懐をもよおす。
かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。
山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんではえている。
いまわれこの谷川のはとりにあって、君を懷しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

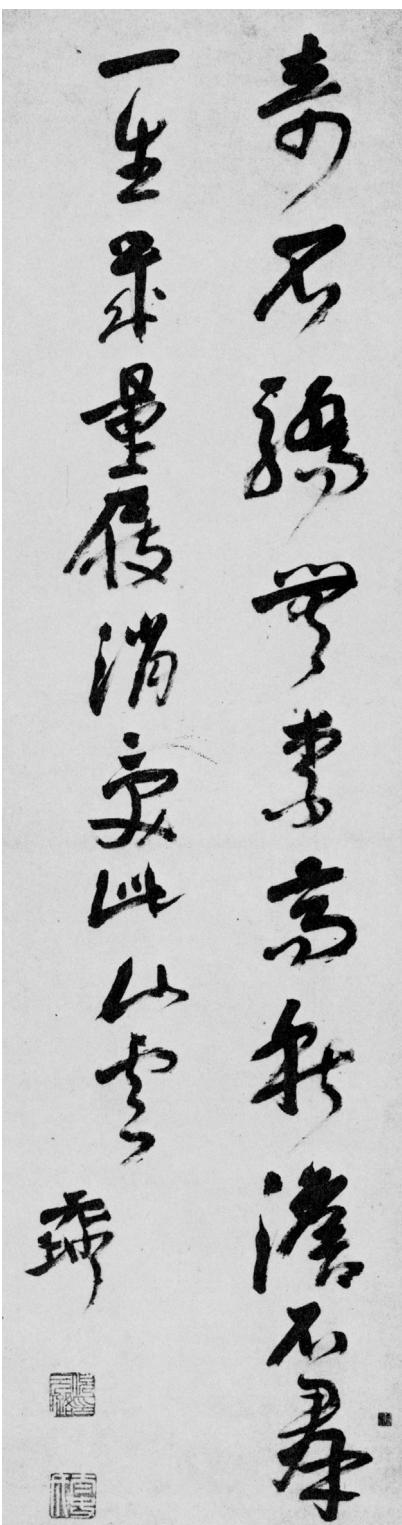
臨書課題・半紙部参考

1月25日正午必着

舍舟五律



奇石五絶

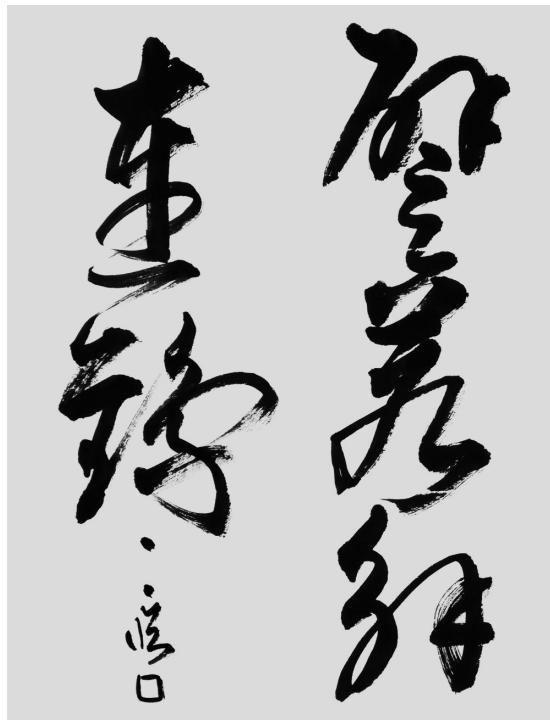
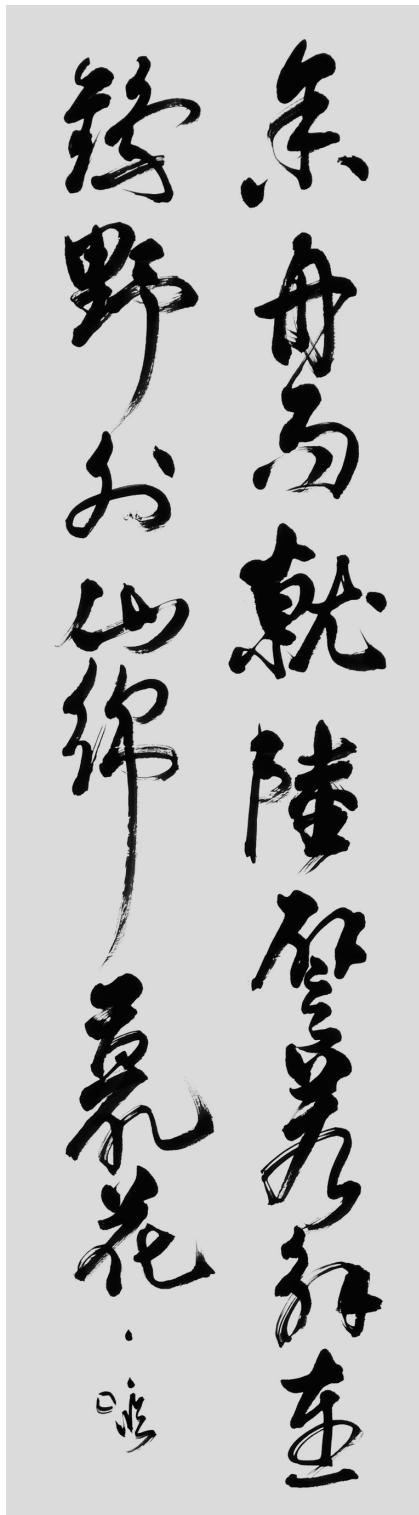


奇石驕無奈高秋澹不群／一生幾量屐消受此山雲元璐

奇石驕りて奈ともする無く
高秋 淡くして群ならず

幾綱の履きを須いて

此の山雲を消受せるかを知らん



倪元璐は明末の一五九三年に生れ、わずか十七歳で舉人となつたが、最終試験の会試では落第をくり返し、進士に合格したのは三十歳の時であった。その後詩文をよくしたので、だんだん出世して翰林院学士となり、戸部尚書（大蔵大臣）などをつめた。一六四四年、反乱者の李自成によって北京城が陥落した時に國に殉じた。このように彼の人柄は忠直であったので、後世人からも慕われ、彼の残した書画も非常に賞されている。彼の書について、康有為は「明人で行書をよくしない人はないが、その中でも倪は行書体に新味と変化をもたらした」としている。一見すると結体に張瑞圖との共通点をみることができが、品格の高さや渋味では倪の書の方が勝っているという声も多い。

この作品は、五言律詩を書いたもので、彼の作品の中でも傑作の一つとされ、筆意が變化に富み、結体・章法などに妙味がある。筆は軽快にみえるが落ち着きがあり、品格も備えている。彼は明の四大家中に加わってはいないが、この時代の最も傑出した作家の一人にあげることができよう。

（春廣）

明・倪元璐 舍舟五律

1月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



中学一年

雨宮春聲先生書



中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



せい
政

じ
治

小学五年

榎戸 春龍先生書



まつ
松

ば
葉

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着



大
たい

安
あん

小学三年

藤田幸春先生書



令
れい

和
わ

小学四年

細谷春誠先生書



き

ん

小学一年・幼年

明石幸子書



こ

いぬ

小学二年

森戸春濤書

1月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

新春の空に日本一の
富士山がそびえ立つ

元日の朝をむかえ新た
な希望を胸にいだく

初日の末をうけて輝く
新春の海のまぶしさ

四方へ輝く今朝のそら
初日をひかるアーチ出で、

み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春はさにけり（藤原良経）
シイノハヤマモカスミテホクセイノフリニシヨリニハサニケリ（ふじわらのよしつね）
シイノハヤマモカスミテホクセイノフリニシヨリニハサニケリ（ふじわらのよしつね）

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

あけまして
おめでて
どう

と
う

幼年

みんなど
をしま
したこ

な
で

小学一年

ること
しも
元気
よくか

く
も
う
か

小学二年

に明
けゆくは
きぼうは
のつ空

る
こと
しも
う
か

小学三年

元日の朝はなにもか
もが新しく見える

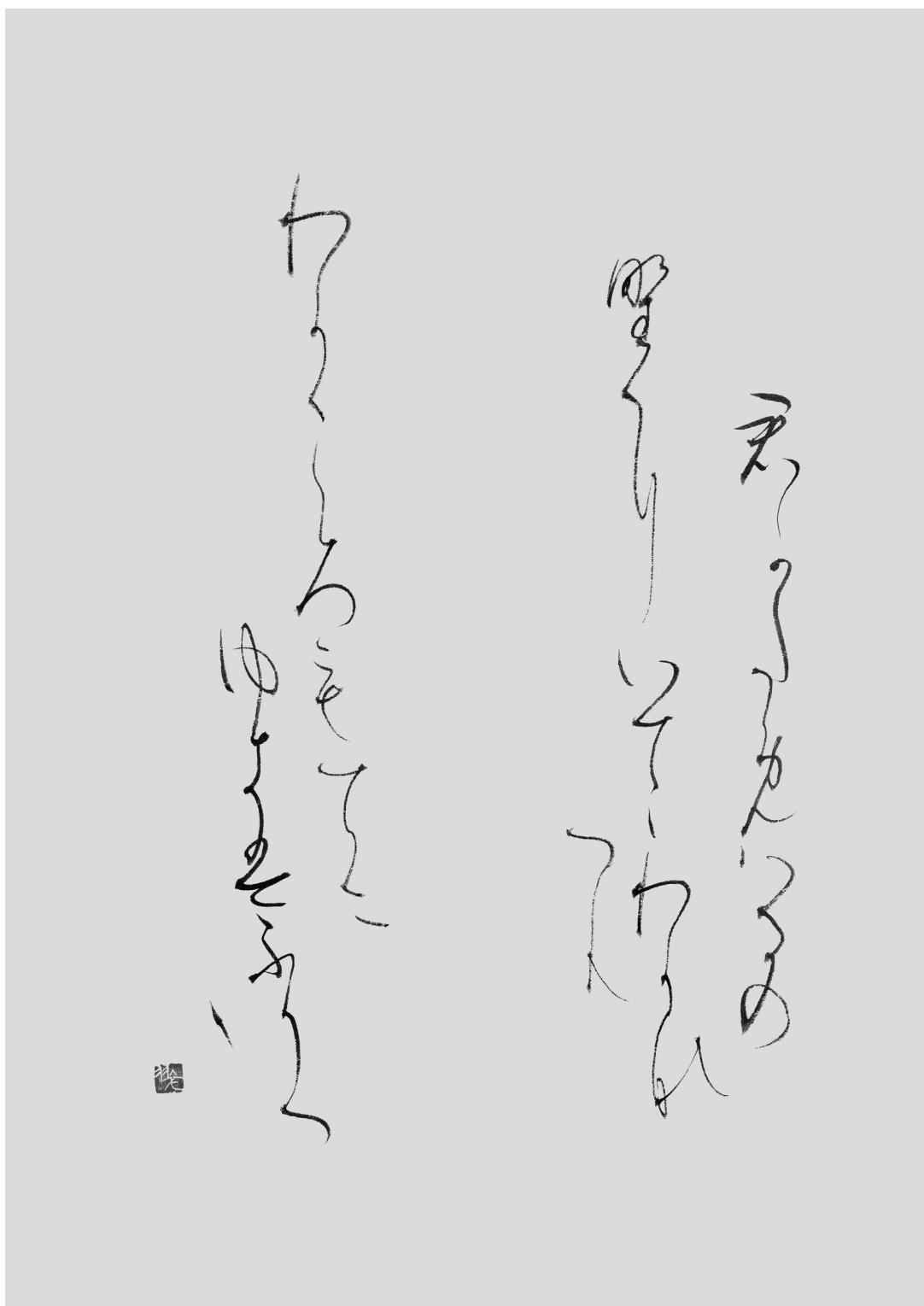
な
に
も
う
か

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

1月25日正午必着



君がため
可多免
八はるの野にいでゝ
耳
わかなつむ
可那
无
毛
我がころもでに
毛
ゆきはふりつゝ
二
支盤

(光孝天皇)

松永翠舟先生書